

# J・S・ゲール牧師の韓国での宣教活動について

——韓英辞典の編纂作業も含めて

李 漢 燮

## 1 はじめに

本稿は、一九世紀末から二〇世紀前半にかけて、韓国で約四〇年間宣教教師として活躍したカナダ人、J・S・ゲール (James Scarth Gale) 牧師の韓国での宣教活動について述べようとするものである。ゲール牧師は、韓国で宣教活動をする間に、聖書を韓国語に翻訳したり、本格的な韓英辞典を作ったり、韓国文学や文化を西洋に紹介する等した人物で、彼の活躍は、幕末に來日したヘボンのそれとよく似ていると言われている。

現在、韓国ではキリスト教が盛んになり、全人口の三割近くがキリスト教の信者であると言われている。全国至るところに教会ができ、一九九九年現在、世界各地に七〇〇〇人を超える宣教教師を派遣している。このようにキリスト教が盛んになったのには、いろいろ

と理由があったものと思われるが、歴史を溯って考えてみると、宣教教師の役割が大きかったという点に気がつく。西洋の宣教教師たちは、韓国に入ってキリスト教の種を播いただけではなく、それを育てる役割も果たしたのである。そこで本稿では、J・S・ゲール牧師の例を取り上げ、一九世紀末以降の西洋人プロテスタント宣教教師たちの、韓国での宣教活動について考えてみようと思う。ここでは、まず一九世紀末以降の西洋人宣教教師の韓国での宣教活動を概括し、さらにゲール牧師の韓国での活躍全般について見てみたいと思う。

## 2 西洋人の韓国宣教

### (一) 西洋人宣教教師の韓国派遣

韓国に西洋人の宣教教師が入るようになったのは一六世紀の終りごろで、カソリックの宣教教師が先である。初めに韓国に入った宣教教師

は、スペイン出身の神父 Gregorio de Céspedes という人物のようである。周知のごとく、豊臣秀吉は一五九二年に朝鮮に出兵するのであるが、そのときの日本軍には大勢のカソリックの信者がいたと言われている。戦争は七年間も続き、死者もたくさん出たので、キリシタン大名であった小西行長は本国の耶穌会に神父を派遣することを要請する。小西行長の要請を受けた耶穌会日本副管区長、ゴメス (P. Gomes) 神父は、一五九四年 Gregorio de Céspedes 神父を朝鮮に派遣することを決める。Céspedes 神父は、小西行長の本陣があった熊川に一年間滞在し、日本軍の陣地を廻りながら死者の霊を慰めるなどの任務を果たした。Céspedes 神父は、当時の朝鮮の人との直接的な接触も無く、滞在もたった一年間しかなかったのに、カソリックを広めるために来韓した宣教師とは考えにくい。しかし、目的はどうであれ、西洋の神父が日本を経由して韓国に入っただという事は面白いことである。

西洋の宣教師と韓国人が、接触をしはじめたのは一六世紀以降である。当時朝鮮では、年に数回中国に使節を送ることになっており、この時中国に派遣された朝鮮の使節は中国に来ていた西洋の宣教師たちと直接接触したのである。韓国の使節団の中には、西洋の神父から洗礼を受けた者もあり、また、キリスト教関係の書籍を韓国国内に持ち込む者もいた。このようにして朝鮮にはカソリックが入るようになってくるのであるが、以後スピードは遅いものの、カソリックの信

者が増えるようになる。ところが、キリスト教を広める目的で宣教師が韓国に入ったのは随分遅く、一八世紀末まで待たなければならぬ。韓国に宣教のために入った最初の宣教師は、周文謨という中国人神父で、一七九四年のことであった。当時朝鮮では、カソリックを認めなかったので、神父や信者が捕まえては処刑するなどカソリックを迫害していた。周文謨神父は、六年間も朝鮮で宣教活動をするのであるが、一八〇一年に逮捕され、処刑された。カソリックへの迫害に対し、朝鮮のカソリック信者たちは、中国のカソリック教団に自分たちを保護してくれるよう要請する一方、ローマ教皇庁に対しても、朝鮮に宣教師を派遣してくれるよう要望する。これを受けて、ローマ教皇庁では、一八三一年朝鮮を単独の教区と認め、一八三六年フランス人の P. P. Maubant という神父を朝鮮に派遣する。以後、多くのカソリックの神父が次々と朝鮮に入るようになるが、周知の通りカソリックは迫害され、たくさん殉教者を出している。

一方、プロテスタント宣教師が韓国に入るようになったのは、一八八〇年代以降である。一八七六年日本に開港させられた朝鮮は、アメリカ、ロシア、イギリス、フランスなど西洋の列強にも開港し、国交を樹立する条約を結ぶことになる。西洋の列強は朝鮮に対し、宗教活動を認めることを要求しており、朝鮮政府も部分的ではあるが、それを認めざるを得なかった。このため、一八八〇年代の初め

ごろから宣教師たちは韓国である程度自由に宣教活動をする事ができたのである。

韓国に入った最初のプロテスタントの宣教師は、一八八四年に来たアメリカ人の Horace N. Allen 牧師である。一九世紀末以降韓国に派遣された宣教師については、Martha Huntley の *A History of the Protestant Mission in Korea* (MogYang Publishing Co.) に詳しいが、これらのうち韓国で活躍が顕著であった宣教師を挙げるに「資料―1」の通りである。「資料―1」は、Martha Huntley の著書に載っている宣教師を、私なりに国籍別・教派別に分けたもので、本稿の末尾に掲げることにする。

ここでは一九四五年以前に韓国に派遣されたプロテスタント宣教師を、国籍や教派・所属宣教会別に見てみたいと思う。表1は、一九四五年以前に韓国に派遣された宣教師を国籍別に分けてみたものであるが、これを見ると一九四五年までに韓国に来た西洋人宣教師の数は、キムステン他『求韓宣教師総覧』（韓国基督教歴史研究所、一九九三）によれば、一五三〇人ぐらいであったことが分かる。

宣教師の国籍は、アメリカ人が半数以上で六五%を占めており、次にイギリス人、カナダ人、オーストラリア人の順になっている。表1で分かることは、第二次大戦前までに韓国に来ていた西洋人の宣教師は、ほとんどがアメリカ人が英連邦の人であったということである。

表2は、宣教師を教派別に分けてみたものである。表2を見ると、当時韓国にはさまざまな教派の宣教師が来ていたということが分かる。また、長老教 (Presbyterian Church, 四四%) と監理教 (Methodist Church, 二六%) からの宣教師が多く、この二つの教派を合わせると全体の七割を占めているということも特徴である。

また、宣教師を所属宣教会別に分けてみると表3の通りになる。宣教師たちの所属宣教会は、米北長老会の人が一・一%で、次いで米北監理会 (一五・七%)、米南長老会 (一一・五%)、米南監理会 (一〇・六%) の順になっている。これを見ると、当時韓国に来ていた宣教師は米北長老会と米北監理会の宣教師が多かったということが分かる。

表1、表2、表3では、当時韓国に来ていた宣教師をいろいろな角度から見ただけであるが、ここで注目されるのは、宣教師の国籍や教派・宣教会別の分布に片寄りがあったということである。なぜこのような片寄りができたのか、片寄りの原因は宣教師を受け入れる側の事情なのか、送る側の事情なのか、これから研究すべき課題である。

## (二) カナダ人の韓国宣教

ここではJ・S・ゲール牧師を論ずる前に、まずカナダ人宣教師たちの韓国宣教全般について見てみることにする。一九四五年まで

表1 1945年以前に韓国に派遣された宣教師の国籍別統計

順位	国籍	宣教師の数	比率	備考
1	アメリカ	1,009	65.9%	英連邦 英連邦 国籍不明を含む
2	イギリス	199	13.0%	
3	カナダ	97	6.3%	
4	オーストラリア	85	5.6%	
	その他	140	9.2%	
	合計	1,530	100%	

表2 1945年以前に韓国に派遣された宣教師の教派別統計

順位	国籍	宣教師の数	比率	備考
1	長老教	679	44.4%	Presbyterian Church
2	監理教	403	26.3%	Methodist Church
3	救世軍	125	8.1%	The Slavation Army
4	聖公会	77	5.0%	Church Missionary Society
5	安息教	28	1.8%	The Seventh Day Adventist
6	聖潔教(東洋宣教会)	26	1.7%	The Orietal Missonary Society
7	その他	192	12.5%	教派不明を含む
	合計	1,530	100%	

表3 1945年以前に韓国に派遣された宣教師の所属宣教会別統計

順位	所属宣教会	宣教師の数	比率	備考
1	米北長老会	339	22.1%	教派不明を含む
2	米北監理会	241	15.7%	
3	米南長老会	191	12.5%	
4	米南監理会	162	10.6%	
5	救世軍	125	8.2%	
6	豪州長老会	84	5.5%	
7	英国聖公会	77	5.0%	
8	カナダ連合教会	65	4.2%	
9	安息教	28	1.8%	
10	聖潔教(東洋宣教会)	26	1.7%	
	その他	192	12.5%	
	合計	1,530	100%	

に韓国に派遣された宣教師のうち、カナダ人はアメリカ、イギリスに次いで多いということはすでに述べた通りである。韓国宣教の必要性を提起した初めてのカナダ人は、ジョンダン・ゴボスという人物で、彼は一八八七年五月 Knox College の大学機関誌に、「Corea では我々の福音の助けを求めている。一五〇〇万の人が福音伝道者が来ることを待っている」という記事を書いている。この記事の影響を受けたのか、カナダでは韓国への宣教の必要性を考える人が多くなり、一八八八年トロント大学の中にある University College の Y M C A は、J・S・ゲールを宣教師として韓国に派遣することを決める。ゲールは一八八八年一二月、Har-kness 夫婦と三人で韓国に来るのであるが、一八九七年以前に韓国

に派遣されたカナダ人宣教師は次の通りである。

Harkness 夫婦（一八八八、独立宣教師）：一年後帰国

James Scarth Gale（一八八八、独立宣教師、北長老教）：トロント大学YMCAから宣教費。

ト大学YMCAから宣教費。

Malcom C. Fenwick（一八八九、独立宣教師、カナダ浸礼教）：一八九三年帰国。一八九六年に来韓し、韓国最初の浸礼教を作った。

R. A. Hardie（一八九〇、独立宣教師）：トロント大医学部基督教青年会の支援で来韓。

William James Hall（一八九一、北監理教）：医療宣教。日清戦争の時、伝染病にかかり、死去。

William John McKenzie（一八九三、独立宣教師）：カナダ人の韓国宣教に大きな影響を及ぼした。一八九五年日射病により死去。

この時期に派遣された人物を見ると、特定の教団に属さない人が多いということ、牧師の資格を持っていない人が多いということに気づく。当時は牧師でない人でも宣教師になり得たのである。

一八九七年以降はカナダ長老教の宣教師が入るが、これは、William John McKenzie 牧師の死と関連がある。William John McKenzie 牧師は黄海道海州にある松川（ソレ）教会に来ていた人物で、韓国人に感銘を与えた牧師であったという。彼は宣教活動をする間、韓国人と全く同じ食べ物を食べるなど、韓国人と同じ生活

をした人で、宣教活動に疲れ、ついに日射病で倒れてしまう。

McKenzie 牧師の死後、信者たちはカナダ宣教師部に直接宣教師を派遣するよう、願い状を出すようになる。当時、カナダ長老教では海外に宣教師を派遣する余裕はなかったのであったが、韓国人の宣教師派遣の要請にこたえて、一八九八年から Robert Grierson 夫婦や W. R. Foot 夫婦、D. M. McRae 牧師を韓国に派遣することを決める。

カナダ人宣教師は、宣教活動においてアメリカやイギリスの宣教師とは異なる点が少なくない。まず挙げられるのは、宣教の地域を韓国北東部にある咸鏡南道、咸鏡北道とし、宣教環境の悪い僻地を選んだ点である。その理由については、韓国北東部が気候面でカナダ北東部のそれと似ていたからであると言う人もいるが、アメリカの宣教師たちがすでに大都会で宣教活動をしていたため、宣教師のいない地域を探し求めた結果、たまたま韓国北東部が選ばれたと思われる。もう一つは、当時韓国を植民地支配していた日本に抵抗したという点である。当時韓国に来ていた西洋の宣教師は「政教分離の原則」に従い、日本の韓国支配を黙認するのが普通であった。ところが、カナダ人宣教師は韓国人に同情を示し、韓国の独立運動を支援するなど、反日的な面が大きかったと言われている。韓国では一九四五年独立後、韓国独立に貢献した人を独立有功者として優遇したのであるが、独立有功者として選ばれた七人の外国人のうち四人

がカナダ人宣教師だったのである。

### 3 J・S・ゲール牧師の韓国での宣教活動

#### (一) 出生、教育、青年時代

J・S・ゲール牧師は、一八六三年二月一九日にカナダのトロントに近い田舎町で生まれた。父は一八一九年生まれで、スコットランドから一八三二年にカナダへ移民した人物である。父はスコットランド長老教信者で、ゲールも小さいころから長老教の教会に通っていた。一八八四年に大学の予備校を卒業し、一八八四年トロント大学の中にある University College に入學する。一八八五年、大  
学二年の時、フランスのパリに留學するが、留學の目的は McCall Mission で働きながら College of France で勉強することであった。

ここでゲールは、Robert Whitacker McCall 牧師の宣教方法を習うことになる。McCall Mission とは、イギリスの Robert Whitacker McCall 牧師が作った宣教団で、宣教方法は新しい教派を作らない、教派と教派との繋がりを図る、巡回宣教を重視する、といった方法であった。つまり、教派を超えた宣教をする、巡回宣教を大事にするといった方法である。ゲールはフランス留學を通してフランス語を覚えるのであるが、これは後日韓国での宣教活動に役に立っている。韓国で宣教活動をする間、フランス人の神父たちと交流ができ、なによりもフランス人のリデル神父が作った『韓仏

辞典』を利用することができたからである。本稿で問題にする『韓英字典』は、おそらくリデル神父の『韓仏字典』を参考にしながら作ったものであらうと思われる。

トロントに帰って来たゲールは、貧民街であったチャイナタウンなどを巡回しながら宣教活動をした。それから大学を卒業してすぐにフランスへ戻り、McCall Mission に入る計画を持っていた。ところが、一八八八年、University College の YMCA がゲールを韓国へ派遣する宣教師として任命したため、ゲールはフランスへ行く計画を諦めた。韓国への派遣条件は年俸五〇〇ドルだった。参考までにいうと、当時アメリカ人宣教師の年俸は平均一〇〇〇ドル程度だったという。

#### (二) 韓国到着及び宣教活動

##### ① 韓国到着

J・S・ゲール牧師は、Harkness 夫婦と共に三人で、一八八八年一月五日、仁川を経由して韓国に入った。婚約者をカナダに残しての赴任であった。仁川には米国北長老教から派遣された Horace Grant Underwood 牧師が迎えに来てくれた。数日を Underwood の家に泊ったゲールは、ソウルの宣教師村に住むようになった。ソウル到着一週間後、Underwood の教会の礼拝に参加するのであるが、そこでゲールは、教会にはすでに信者が五〇人もい

て、当日も一人の韓国人が洗礼を受けるのを見てびっくりした。カナダを出るまでは、韓国での宣教活動には制約が多いと聞いていたからである。前述した通り、当時韓国では西洋諸国との条約により、宣教活動にほとんど制約が少なくなっていたのである。

## ② 韓国での活躍

### (一) 宣教活動

韓国到着後、宣教する場所を探していたゲール牧師は、まず韓国語を習う必要性を痛感し、ソウルの北西部にある海州のソレ地域に行く。ソレ地域は韓国最初のプロテスタント教会が開設された地域である。ここで三ヶ月間、韓国語と漢文を習ったゲールは、ソウルに一旦戻るが、宣教地域を求めて更に釜山に行き、しばらく滞在する。釜山は、一八七六年に外国に開港した初めての港で、人口も多く、宣教しやすいと思ったからである。ところが、釜山でも定着できず、翌年（一八九〇年）ソウルに戻り、五月、ソウル中心部にある蓮洞教会の宣教師となる。この蓮洞教会はゲールが韓国を離れるまで四〇年近く勤めた教会である。

ゲールがソウルで宣教師として活躍した一八九〇年ごろは、すでに多くの宣教師が韓国に来ていた。人によっては宣教活動中に韓国で亡くなることもあり、John W. Heronもその一人であった。アメリカ北長老教から派遣されたJohn W. Heronは、一八九〇年に

ソウルで病気のため世界する。ゲールもHeronの葬儀に参列するのであるが、そこでHeronの未亡人が悲しんでいる様子を見て、深い同情を感じるようになる。それから二人は結婚を考え、ゲールはカナダに残してきた婚約者に手紙を出す。「あなたとは申し訳ないけれど、結婚できない。ここでHeronさんの未亡人と結婚する。」という内容の手紙であった。ゲールの婚約者は大変なショックを受け、色々な所にゲールの裏切り行為を訴える。当時、宣教師の間にはゲールの韓国での宣教活動について良く思わない者もいて、こっそりとカナダのYMCAに讒言する。ゲールは宣教活動に熱心ではない、韓国の言語や文化などの方に興味を引かれているようだ。このような事態を受け、トロント大学 University College of Y M C Aでは、ゲールに対してこれ以上の支援をしないことを決める。

ゲール牧師は、一八九二年、John W. Heronの未亡人 Harriet Gibsonと結婚する。ところが、二人には収入がなかった。生活に困ったゲール牧師は、アメリカの北長老教に所属を替え、元山に向かう。一八九二年七月のことであった。ゲール牧師は、夫人とヘロンの娘二人、夫人の母親など五人で元山に行くのであるが、ここで何年間か宣教活動をする。一八九六年ごろから再びソウルに戻り、蓮洞教会の牧師になるわけだが、以後一九二七年に引退するまで、蓮洞教会で宣教師として活躍する。

一八九七年以降は多彩な活動をするのであるが、彼の活躍のうち

最も注目されるのは聖書の翻訳である。当時、聖書は部分的には韓国語に翻訳されていたが、完訳はまだできていなかった。聖書的全訳についての計画は、一八八八年「朝鮮耶蘇教書会」の下に「聖書翻訳委員会」が作られてからである。ゲール牧師は、一八九三年五月「聖書翻訳委員会」のメンバーが改編されるときに、アメリカ北長老会の代表として翻訳委員となる。これにより新訳聖書は韓国語に翻訳され、一九〇〇年に出版される。旧約聖書の方は、一九〇四年から一九一〇年の間に翻訳され、一九一一年に出版される。韓国語をずいぶん使いこなせたゲール牧師は聖書の翻訳において中心的人物だった。ゲール牧師の韓国での活躍を年度別にまとめると次のようになる。

- 一八八八年一二月二三日 初めて Horace Grant Underwood の教会で礼拝（五〇人の信者、当日一人の韓国人が洗礼を受けるのを見た）。
- 一八八九年三月 海州に向う（そこで韓国語を習う）。六月にソウルに戻ってから、釜山に向う。
- 一八九〇年五月 蓮洞教会の宣教師。
- 一八九一年五月 牧師の資格を認められる（アメリカのインディアナ州）。平壤、義州、満洲、白頭山、咸興、元山を廻る。
- 一八九二年 John W. Heron の夫人（Harriet Gibson）と結婚。
- 七月、元山にアメリカ北長老教の宣教師として赴任（ゲール

牧師夫婦と二人の娘、夫人の母親など五人で）。

一八九五年 天路歷程（The Pilgrim's Progress）を韓国語に翻訳。

一八九七年四月 「基督新聞」の主幹。以後一九〇六年まで主幹として奉仕。

一九〇三年 蓮洞教会の牧師。

一九〇三—一九〇四年 監獄宣教（金貞植、李商在、李承仁、李源兢、洪在箕など）。

一九〇三年三月 皇城基督教青年会（YMCA）設立。

一九〇四年 皇城基督教青年会（YMCA）の会長となる。

「国民教育会」の創設に関与。※「国民教育会」…教育を通しての民衆啓蒙活動を目指した。ワシントンの Howard 大学から神学博士の学位を授与される。

一九〇八年 夫人（Harriet Gibson）が結核で死去する。

一九一〇年 アメリカ人 Louis と再婚。

一九二五年 『新旧約全書』翻訳。

一九二七年 カナダに帰る。

一九二八年 引退。王立アジア学会韓国支部の幹事。

一九三七年 他界する。

(2) 宣教における立場



ゲール牧師は、特定の教派に属さなかった人物である。一時期、アメリカの北長老教派に属したことはあったが、韓国での宣教活動のほとんどは、特定の教団に属さなかったのである。この点は、ゲール牧師の宣教における立場を考えるのに重要なポイントとなる。

宣教師たちは現地で活動をする時に、自分が属している教会の規範に従って行動するのが普通である。いつも現地の事情を本国の教団に報告し、何かあった場合には、現地に来てしている宣教師のリーダーに相談をするか、本国教団の指示に従って行動するのが普通であった。ところが、ゲール牧師はどの教団にも属さなかったため、自由に行動ができたのである。韓国に関する著作を多く出したり、辞典を編纂し続けたということは、これと関係があると思われる。

次にあげられる点は、ゲール牧師は自由な神学観を持っていたということである。ゲール牧師は、キリスト教の教理や聖書の解釈などにおいて、かなり自由な立場をとっていたため、他の宣教師たちと度々意見の衝突を起こした。戦後、韓国の長老教では、一九五〇年代終わりごろに保守派と進歩派に分かれるのであるが、現代韓国のキリスト教の進歩派の始まりは、ゲール牧師からであるという人もいるぐらいである。

次に、最後まで政治と教会を分離する立場を維持したという点があげられる。ゲール牧師は福音主義者で、社会運動や政治への関与は一切しなかった。彼が韓国を発つまで勤めた蓮洞教会では、韓国

の独立運動に参加した信者がほとんどなく、彼自身も日本に逆らうことはしなかったと言われている。このような態度に対して、宣教師研究者の中には、彼を親日牧師であったと言う人もいる。

### (3) 韓国研究

ゲール牧師は、韓国での四〇年間に亘る滞在期間中に、韓国の文化や歴史、言語、文学などを研究し、西洋に紹介したということでも有名である。彼は韓国に来てからすぐに現地の言葉を覚え、来韓一〇年後から多くの論文や著書を出している。一八九八年には『Korean Sketches』という韓国紹介書を出版し、一九〇三年には『Korean Grammatical Forms 辞課指南』という韓国語の文法書を発刊した。さらに一九〇四年には、当時韓国に来ていた宣教師をモデルに『The Vanguard』という小説まで書いている。当時東洋に来ていた宣教師のうち、その国の歴史や文化、言語を研究した人は多いが、小説まで書いた例は珍しい。彼の韓国研究文献を紹介すると次の通りである。

### 論著

J. S. Gale (1898), *Korean Sketches*, Fleming H. Revell Co.

J. S. Gale (1903), *Korean and Formosan, Korea Review*, Vol.

III, pp. 198-204

J. S. Gale (1903), Korean Grammatical Forms 辞課指南  
American Presbyterian Mission North Second Edition  
Seoul, Methodist Publishing House, 229p

J. S. Gale (1904), The Vanguard, Fleming H. Revell Co.

J. S. Gale (1904), Spelling Reform, Korea Review, Vol. IV, pp.  
385-393

J. S. Gale (1906), Korean and Ainu, Korea Review, Vol. IV,  
pp. 223-228

J. S. Gale (1906), Korean in Transition, Jennings & Graham  
J. S. Gale (1912), The Korean and Alphabet, 朝鮮 Vol. IV  
Part I, pp. 13-61

J. S. Gale (1917), The Korean and Language, Korea Maga-  
zine Vol. I

J. S. Gale (1917), Difficulties in Korean, Korea Magazine  
Vol. I

J. S. Gale (1917), Modern Word and Korean Language,  
Korea Magazine Vol. I

J. S. Gale (1918), Korean Language Study, Korea Magazine  
Vol. II

J. S. Gale (1925), 韓民族史

## 翻訳

一八九五年、天路歷程 (The Pilgrim's Progress) を韓国語に翻  
訳

九雲夢を英語に翻訳

春香伝を英語に翻訳

## 辞典編纂

一八九五年ごろ、簡単な韓英辞典編纂

一八九七年、本格的な韓英辞典編纂、一九一一年再版、一九三  
一年三版

なお、彼の韓国研究のうち、最も重要な研究は韓国語の辞典編纂  
であるが、これについては「4 韓英辞典の編纂」で述べることに  
する。

## 4 韓英辞典の編纂

### (一) 韓国における一八七〇—一九三〇年代の対訳辞書

ゲール牧師にとって一番難しく、時間のかかった仕事は韓国語の  
辞典編纂作業であったろうと思われる。東アジアにおいて、近代的  
な辞書作りは宣教師の手によるものが多かったが、韓国においても  
同じである。ここでしばらく一八七九年代から一九一〇年代までに  
韓国で作られた対訳辞書について見てみることにする。

① 露韓字典 (Opytie Russko-Koreiskago Slobarya, Putschillo, M.

- Petersburg, 1874)
- ② 韓仏字典 (Dictionnaire Cor en-Francais, 巴里外地宣教会編、横浜、1880)
- ③ 韓英英韓辞典 (A Concise Dictionary of the Korean Language, in two parts Korean-English and English-Korean, Underwood, H. G., 横浜、1890)
- ④ 羅韓辞典 (Parvum Vocabularium ad Usum Studiosae Juventutis Coreanae, Daveluy, M. C. A., 香港、1891)
- ⑤ 英韓辞典 (English-Corean Dictionary, being a Vocabulary of Corean Colloquial Words in Common Use, Scott, James, 漢城府、英国基督教伝会、1891)
- ⑥ 韓英字典 (A Korean-English Dictionary, James Scarth Gale, 横浜、京城耶穌教会、1897)
- ⑦ 仏韓字典 (Petit Dictionnaire Francais-Coren, Al v que Charles, 京城、1991)
- ⑧ 英韓字典 (An English-Korean Dictionary, Jones, George Heber, 東京 教文館、1914)
- これらのうち、①番を除いたすべてが宣教師が作った辞書である。宣教師たちが作った辞書を細かくみると、プロテスタント宣教師が作った辞書は、③番、⑤番、⑥番、⑧番になる。従来、漢字文化圏の辞書といえば、単語帳のようなものが多かったと思われる。当時

東洋の辞書は、見出しを集め、意味分類別に並べる、見出しには語形を示すものの、意味の記述はしない。場合によっては、見出しの表記情報や読み情報を示す、といった形が普通の辞書の様態であった。ところが、宣教師たちが作った辞書は、それぞれの見出しに詳しい言語情報を書き、さらに見出しを引きやすく並べるといった、辞書作りの新しい方法を提示した。これらの辞書は、もともと現地人のためではなく、宣教師自身や西洋人のために作られたものであるが、その後の日本や韓国での、辞書作りの方法として採り入れられた、宣教師達が東洋にもたらした新しい辞書文化だったのである。

## (二) 『韓英字典』の各版の概要

ゲール牧師が作った『韓英字典』は、宣教師が作った韓国語との対訳辞典の中で最も本格的で充実した大型辞書である。しかもこの辞典は、初版(一八九七年)、再版(一九一一年)、に続いて三版(一九三一年)まで出されており、版を重ねる度に、当時の韓国語を収録して充実させ、一八九〇年代から一九三〇年代の韓国語の語彙の変化を調べるのに重要な資料として認められている。まず、初版から見ることにする。初版の概要は次の通りである。

書名: 韓英字典 (韓英字典)

構成: 韓英部 PART I (A Korean-English Dictionary)

漢英部 PART II (A Chinese-English Dictionary)

見出し語：一万二二三語

見出しの順番：フランス語のアルファベット順。ページ別見出しに一連の番号を振っている。

出版社：KELLY & WALSH Limited

頁数：一一六〇頁

付録：韓国、中国、日本の歴代王朝の系譜、十二支、数字の単位、十進法など

特徴：韓英部と漢英部とに分けた。韓仏字典から影響を受けていたか？

『韓英字典』の初版は、一八九七年横浜で印刷された。見出しは、一万二二三語で、来日していたヘボンが作った『和英語林集成』とはほぼ同じ規模である。初版の特徴は、何と言っても、見出しをフランス語のアルファベット順に並べたという点と、また「韓英部」と「漢英部」に分けた点である。ゲール牧師は、固有韓国語と漢語起源の単語を分けて辞書を作ったのである。この初版の成立事情についてはまだ分からないことが多い。いつから辞書作りをはじめたのか、韓国語の見出しをどういうふうに集めたのか、単語の記述はどういうふうにしたのか、自分の知識に頼ったのか、韓国人の協力者に聞いたのか等がそれである。これらの問題を解明するには、今後の研究に俟たなければならない。

次は再版であるが、再版の概要は次の通りである。

書名：한영사전 (韓英字典 A Korean-English Dictionary)

構成：初版にあつた漢英部 (A Chinese-English Dictionary) を無くした。

見出し語：約五万語 (再版の序文参照)

見出しの順番：韓国語の字母順

出版社：THE FUKUIN PRINTING COLT

頁数：一一五四頁

付録：諸国年代表、THE SIXTY YEAR CYCLE、ONE HUNDRED YEARS CALENDAR

特徴：漢英部を無くし、漢語を韓英部の中に入れて配列した (漢語には\*印をつけた)。

再版は、初版ができてから一四年後の一九一一年に横浜で出された。ページ数は一一五四ページと初版と変わりがなく、見出しは約五万語と三倍以上に増えている。再版の特徴は、見出し語の並べ方が韓国語の文字の順番に直されているという点と、初版で「韓英部」と「漢英部」に分けていたものを、合わせて一つにしたという点である。

三版は、一九三一年に出された。一九二三年の関東大震災で、版下などがすべて焼かれたため、辞書は一から作り直さなければならなかった。三版の製作には、韓国人の協力者が多数参加し、見出しは八万二〇〇〇語に、頁は一七八一頁に増えている。三版の特徴と

しては、多くの韓国人協力者が辞書作りに参加したという点と、人名や地名などが見出しに加えられたという点が見出されるだろう。

三版の概要は次の通りである。

書名：한글대사전 (韓英大字典 The Unabridged Korean-English Dictionary)

構成：初版にあった漢英部 (A Chinese-English Dictionary) をなくした。

見出し語：約八万二〇〇〇語 (三版の序文参照)

見出しの順番：韓国語の字母順

出版社：문우회 THE CHRISTIAN LITERATURE SOCIETY OF KOREA 耶蘇教書會

頁数：一七八二頁

付録：DYNASTIES AND KINGS OF KOREA, NAMES OF KINGS IN KOREAN ALPHABETICAL ORDER, NAMES OF THE YEARS 1850-1951, THE TWELVE HOURS OF THE FAR-EASTERN DAY, THE SIXTY YEAR CYCLE, ONE HUNDRED YEARS CALENDAR

特徴：地名や人名が見出しに加えられた。

ゲール牧師の『韓英字典』は、ろくな韓国語の辞書がない時代に出ただけに、韓国語の辞書の代わりとしても使われた。

### (三) 外国の辞書との関連

最後に、ゲール牧師の「辞典」と、他の辞書との関連について考えてみることにする。筆者は、近代以降、東アジアにおいて宣教師達が作った対訳辞典は、多かれ少なかれ繋がっているだろうという仮説を立てている。当時、中国や日本、韓国に来ていた宣教師達は、辞書作りにおいて、先輩宣教師の辞書に規範を求め、また人によっては先輩が作った辞書を改良する形で新しい辞典を作ってきた。中国の宣教師達が作った英華辞典が、明治以降、日本で英和辞典を作るときに利用されたということは既に知られている。ヘボンの『和英語林集成』も『日葡辞書』と関連があるということも既に指摘されている。筆者は、ゲール牧師の「辞典」もそうだろうと思っている。ゲール牧師は『韓英字典』を作る際、フランスのリデル神父が作った『韓仏辞典』から多くを参考にした。と言うのは、当時の韓国で、参考にできるような辞典は少なかったからである。幸いにして、ゲール牧師はフランス語ができたので、『韓仏字典』を読むのに問題がなかったのである。ゲール牧師が『韓英字典』を作る際、『韓仏字典』から多くを参考にしたということは自身も色々な所で書いている。これが事実であるならば、『韓英字典』は、『日葡辞書』とも関連があると言える。『日葡辞書』は一六〇三年に出版され、フランス人のパゼスが、これをフランス語に翻訳し、一八六八年に『日仏辞典』として生まれ変わる。この『日仏辞典』は、東洋

資料1 駐韓宣教師一覧 (A History of the Protestant Mission in Korea による)

氏名	国籍	教会	期間	宣教地	職業
Horace N.Allen 安論	米国	北長老教	1884-1893	ソウル	医師
Henry G. Appenzeller 亜扁薛羅	米国	北監理教	1885-1902	ソウル	牧師
William B. Scranton 蔬蘭敦	米国	北監理教	1885-1901	ソウル	医師
John W. Heron 惠論	米国	北長老教	1885-1890	ソウル	医師
Horace Grant Underwood	米国	北長老教	1885-1921	ソウル	牧師
Annie Ellers (Miss)	米国	北長老教	1886-1887	ソウル	看護員/医師
Darrell A. Bunker 房巨	米国	北監理教	1886-1936	ソウル	牧師
Homer B. Hulbert 訖法	米国	北監理教	1886-1905	ソウル	教師
Meta Howard(Miss)	米国	北長老教	1887-1889	ソウル	医師
James Scarth Gale 奇一	カナダ	独立宣教師	1888-1927	ソウル	牧師
George Heber Jones 趙元時	米国	北監理教	1888-1911	ソウル	牧師
Daniel L. Gifford	米国	北長老教	1888-1900	ソウル	牧師
Franklin Ohlinger	米国	北監理教	1888-1893	ソウル	牧師
William B. McGill	米国	北監理教	1889- ?	ソウル/元山	医師
Malcom C. Fenwick	カナダ	カナダ浸礼教	1889-1893	元山	牧師
Eli Barr Landis	米国	聖公会	1890-1898	仁川	医師
Susan A. Doty(Miss)	米国	北長老教	1890-1931	ソウル/清州	女教師
Samuel Austin Moffett	米国	北長老教	1890-1934	平壤	牧師
Robert A. Hardie 河鯉泳	カナダ	南監理教	1890-1935	ソウル/元山	医師
Rosetta Sherwood Hall	米国	北監理教	1890-1933	ソウル/平壤	医師
William James Hall	米国	北監理教	1891-1895	ソウル	医師
Cadchandler C. Vinton	米国	北長老教	1891-1907	ソウル	医師
Victoria Arbuckle (miss)	米国	北長老教	1891-1896	ソウル	教師/看護員
William M. Baird 裴偉良	米国	北長老教	1891-1931	平壤	牧師
Hugh Brown	米国	北長老教	1891-1895	釜山	医師
I. Wiles	英国	聖公会	1892-1894	ソウル	医師
William D. Reynolds 李訥瑞	米国	北長老教	1892-1937	平壤	牧師
Graham Lee 李吉威	米国	北長老教	1892-1912	平壤	牧師
W. Arthur Noble 盧普乙	米国	北監理教	1892-1933	ソウル	牧師
Samuel F. Moore	米国	北長老教	1892-1906	ソウル	牧師
Lewis B. Tate	米国	北長老教	1892-1925	全州	牧師
Ellen Strong (Miss)	米国	北長老教	1892-1901	ソウル	女教師
Wilbur L. Swallen	米国	北長老教	1892-1932	平壤	牧師
Ella A. Lewis (Miss)	米国	北監理教	1892-1927	ソウル	(準)看護員
Mattie S. Tate (Miss)	米国	北長老教	1892-1935	全州	伝道師
William John McKenzie	カナダ	独立宣教師	1893-1895	ソレ	牧師
Eugene Bell	米国	北長老教	1893-1925	ソウル/木浦	牧師
Mary M. Cutler (Miss)	米国	北監理教	1893-1938	平壤/ソウル	医師
A.Damer Drew	米国	北長老教	1893-1904	群山	医師
Oliver R. Avison 魚丕信	米国	北長老教	1893-1932	ソウル	医師
C. H. Irvin 魚乙彬	米国	北長老教	1893-1911	釜山	医師
Mattie B.Ingold (Miss)	米国	北長老教	1895-1928	全州	医師
Anna Jacobson	米国	北長老教	1895-1897	ソウル	看護員
Clement C. Owen	米国	北長老教	1895-1909	木浦/光州	医師/牧師
Alexander A. Pieters	ロシア	北長老教	1895-1941	ソウル	牧師
Hunter Wells 禹越時	米国	北長老教	1895-1915	平壤	医師

氏名	国籍	教会	期間	宣教地	職業
Georgiana Whitings (Miss)	米国	北長老教	1895-1900	ソウル	医師
Norman C. Whitmone 魏大模	米国	北長老教	1896-1938	宣川	牧師
Douglas Follwell	米国	北監理教	1897-1925	平壤	医師
Woodbridge Johnson	米国	北長老教	1897-1913	大邱	医師
Frederick S. Miller 閔老雅	米国	北長老教	1897-1936	清州	牧師
Esther Shields (Miss) 秀日斯	米国	北長老教	1897-1937	ソウル	看護員
Robert Grierson 具礼善	カナダ	カナダ長老教	1898-1936	成鎮	医師/牧師
Alfred M. Sharrocks 謝榮秀	米国	北長老教	1899-1919	宣川	医師
Robert J. Moose	米国	南監理教	1899- ?	松都	牧師
William Ford Bull 夫偉嫌	米国	南長老教	1899-1941	群山	医師
Charles F. Bernheisel 片夏薛	米国	北長老教	1900-1942	平壤	牧師
Edward H. Miller 密義斗	米国	北長老教	1901-1941	ソウル	牧師
Charles D. Morris 慕理斯	米国	北監理教	1901-1940	原州	牧師
William N. Blair 邦偉良	米国	北長老教	1901-1946	平壤	牧師
J. L. Gardine 全約琴	米国	南監理教	1902-1938	松都	牧師
A. J. A. Alexander	米国	北長老教	1902-1903	群山	医師
Edwin A. Koons	米国	北長老教	1903-1947	ソウル	牧師
Margaret J. Edmunds	米国	北監理教	1903- ?	ソウル	看護員
J.Gordon Holdcroft 許大殿	米国	北長老教	1903-1905	平壤/ソウル	牧師
John Z. Moore 문요한	米国	北監理教	1903-1941	平壤	牧師
John Fairman Preston 辺約漢	米国	北長老教	1903-1946	順天	牧師
Arthur L. Becker 白雅徳	米国	北監理教	1903-1941	ソウル	牧師
L. C. Rothweiler (Miss)	米国	南監理教	1903- ?	松都	医師
Joseph W. Nolen	米国	北長老教	1904-1908	ソウル	牧師
Jesse W. Hirst	米国	北長老教	1904-1934	ソウル	医師
Wiley H. Forsythe	米国	北長老教	1904-1912	群山/木浦	医師
Robert M. Wilson 禹越淳	米国	北長老教	1905-1948	順天	医師
Walter C. Erdman 魚涂万	米国	北長老教	1906-1931	大邱/平壤	牧師
William M.Clark 康雲林	米国	北長老教	1907-1940	全州/ソウル	牧師
Alice M. Butts (Miss) 富愛乙	米国	北長老教	1907-1943	平壤	看護員
Lulu E. Frey (Miss) 富羅	米国	北監理教	1908-1921	ソウル	教師
E. M. Mowry 牟義理	米国	北長老教	1909-1950	平壤	教師
Harriet E. Pollard (Miss)	米国	北長老教	1911-1944	大邱	教師
Alfred I. Ludlow	米国	北長老教	1912-1938	ソウル	医師
William Scott 徐高道	カナダ	カナダ長老教	1914-1956	咸興	牧師
George S. McCune 尹山温	英国	東洋宣教会	1916-1919	ソウル	牧師
S. A. Beck 白瑞岩	米国	米聖書公会	1916- ?	ソウル	
Willy G. Cram 奇義男	米国	南監理教	1916-1922	松都/ソウル	牧師
Earnest J. Fisher 皮時阿	米国	南監理教	1919- ?	ソウル	教師
Richard H. Baird 裴義就	米国	北長老教	1923-1960	疆界	牧師
Charles D. Stokes 道益瑞	米国	北監理教	1940-1983	大田	牧師
David J. Seel 薛大偉	米国	北長老教	1952-現在	全州	医師
Roy E. Shearer	米国	聯合長老教	1958-1975	安東	牧師
Frank W. Schofield	カナダ	カナダ長老教		ソウル	医師
Martin B. Stokes 都馬連	米国	北監理教		ソウル	牧師
James Van Buskirk 潘福基	米国	北監理教		公州	医師

に派遣された宣教師達に利用されるのであるが、『韓仏字典』を作ったリデル神父も、この『日仏辞典』を参考にしながら『韓仏辞典』を作ったわけである。こういうふうになると、先ほど述べたように、ゲール牧師の『韓英字典』は、『日葡辞書』に関連している可能性が高いと考えられる。ただし、どのへんに、どの部分に関連があるかは今後の研究で明らかにして行かなければならないと考えている。

## 5 おわりに

以上、J・S・ゲールというカナダ人の宣教師を通して、一九世紀以降韓国に来ていた宣教師の問題を考えてみた。本稿を通して、ゲール牧師は四〇年間も宣教活動をし、また聖書を翻訳したり、韓国語の辞書を編纂するなど、いろいろな活躍をしたという点が確認された。

最後に本稿を書きながら感じたことをいくつか挙げて終わりにしたいと思う。まず言いたいことは、宣教師を研究するには宣教師個人個人の研究だけではなく、宣教師を受け入れる側の問題と、送る側の事情を同時に研究しなければならないということである。たとえば、一八世紀の半ば以降、多くの西洋の宣教師たちが東洋に来て、キリスト教を広めるのであるが、一〇〇年以上経った現時点からみると、キリスト教が広まった国とそうでない国がはっきりと分かれ

ている。韓国には日本の数分の一の宣教師しか来なかったにもかかわらず、今や国民の三割前後がキリスト教の信者になっている。それに対して、日本は全人口の1%以下である。中国は、正確な統計は分かっていないが、日本より比率が低いと思われる。このような問題は、宣教師を受け入れる側の問題なのか、送る側の問題なのか。次に、韓国に来ていた宣教師は、七割以上が長老教か監理教の教団から送られたが、これは宣教師を受け入れる側の事情なのか、それとも送る側に理由があるのかが問題になる。韓国や日本に来ていた宣教師には、福音主義の思想を持った宣教師が多かったと言われているが、これは明らかに送る側の問題であろう。

また、韓国に来ていたカナダ人宣教師は、他の国から派遣された宣教師と随分違っていたと指摘したが、これもやはり、カナダ人の文化や考え方、韓国人や韓国文化に対する認識、宣教師を養成する神学校の教育内容と関係がありそうな気がする。これらの問題については次の課題としたい。

## 参考文献

小川圭治・池明観（一九九〇）、『韓日 그리스도 関係史史料』、韓国神学研究所

양현혜（一九九六）、「日本 基督教의 朝鮮伝道」『韓国基督教史 歴



史」五、韓国基督教歴史研究所

유영익 (一九九〇) 『게일 (James Scarth Gale) 의生涯와 그의宣教事業에 관한 연구』 『캐나다연구』 11, pp.135-142

조경정 (一九八五), J. S. 게일의 韓国認識과 在韓活動師에 관한 一研究 『한성사학』 3

주홍근 (一九八五), 『宣教師 奇一의生涯와 韓国基督教에 끼친 貢獻』 『피어선』 神學研究院

韓国基督教歴史研究所 (一九八九), 『韓國基督教의 歴史』, 基督教文社

韓国基督教歴史編纂委員會 (一九九二), 『韓國基督教一〇〇年史』, 韓国基督教長老會出版社

한규무 (一九九五), 『게일 (James S. Gale) 의 韓国認識과 韓國教會에 끼친 影響』 『韓國基督教와 歴史』 四, 韓國基督教歴史研究所

Rutt, Richard, *A Biography of James Scarth Gale and a New Edition of his HISTORY OF KOREAN PEOPLE*, Seoul: Royal Asiatic Society, 1972.

Martha Huntley (차혜순 訳 一九八五) *A History of the Protestant Mission in Korea*, Mogg Yang Publishing Co.

本稿は、二〇〇三年七月一八日、国際日本文化研究センターにて行われた宣教師関係のミニシンポで発表した内容を論文にまとめたものである。当日発表場所にて有益なコメントや御教示をくださった方々に心から感謝の意を表したい。